

野菜畑作生産情報 第1号

平成27年4月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎ 小麦の生育は早まっている。適期の追肥で生育量を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は順調。適期の追肥と春腐病の防除を徹底しよう！

畑作物

1 根雪の状況

- (1) 黒石の消雪日は平年より5日遅い3月28日で、根雪期間は19日長い116日間であった。
- (2) 六戸の消雪日は平年より19日早い2月23日で、根雪期間は28日短い52日間であった。

表-1 根雪の状況

場 所	年次	初日	終日	消雪日	根雪期間
農林総合研究所 (黒石)	本年	12/ 2	3/27	3/28	116日
	(平年差)	(早 14日)	(遅 5日)	(遅 5日)	(長 19日)
	平年	12/16	3/22	3/23	97日
	前年	12/13	3/29	3/30	107日
野菜研究所 (六戸)	本年	1/ 2	2/22	2/23	52日
	(平年差)	(遅 8日)	(早 19日)	(早 19日)	(短 28日)
	平年	12/25	3/13	3/14	80日
	前年	12/28	3/28	3/29	91日

2 小 麦

(1) 生育状況 (4月10日現在)

- ア 草丈は、総じて平年を上回り、消雪が遅かった黒石では下回っている。
- イ 幼穂形成期は、総じて平年より20日程度早まり、消雪が遅かった黒石で4日早まっている。
- ウ 雪腐病は、一部のほ場で発生が見られる。

表－２ 小麦の越冬後の生育状況

(4月10日現在)

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	幼穂形成期 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	幼穂形成期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石)	本年	14.0	1,108	4/9	19.2	1,012	4/15
	平年差・比	(84%)	(95%)	(早4日)	(95%)	(93%)	(±0日)
	平年	16.6	1,167	4/13	20.2	1,083	4/15
	前年	16.1	810	4/16	16.7	755	4/19
野菜研究所 (六戸)	本年	29.8	1,314	3/17			
	平年差・比	(146%)	(95%)	(早16日)			
	平年	20.4	1,376	4/2			
	前年	18.8	1,124	4/13			
つがる市 (旧木造)	本年	25.1	786	3/8	23.6	685	3/9
	平年差・比	(142%)	(92%)	(早19日)	(111%)	(76%)	(早24日)
	平年	17.7	857	3/27	21.2	896	4/2
	前年	17.8	1,249	3/20	19.4	600	3/28
十和田市	本年	24.3	1,276	3/15			
	平年差・比	(169%)	(113%)	(早21日)			
	平年	14.4	1,132	4/5			
	前年	10.4	974	4/10			

注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(旧木造)、十和田市は生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去8か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」がH20～H26年産(24年産(出芽不良)を除く)の6か年、つがる市(旧木造)と十和田市の「ネバリゴシ」が過去13か年、つがる市(旧木造)の「キタカミコムギ」が過去19か年の平均値。

(2) 今後の作業

- ア 転換畑では、融雪水の滞水などによる湿害を防止するため、明きよの設置などにより排水に努める。
- イ 生育が遅れているほ場では、茎数確保のためなるべく早い時期に追肥を実施する。また、一穂粒数を確保しタンパク質含有量を高めるために2回目の追肥を実施する。追肥時期及び量は表－3を参考に、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して調整する。(ネバリゴシの追肥の判断基準は、平成19年度指導奨励事項・指導参考資料等の「小麦ネバリゴシのタンパク質含有量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる」を参照のこと。)
- ウ うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、出穂後はアミスター20フロアブルを使用しない(赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例あり)。
- エ 赤かび病の適期防除のため薬剤散布の準備をする。

表－3 追肥時期と追肥量

追肥時期	消雪後～幼穂形成期(1回目)	止葉抽出期(減数分裂期)(2回目)
追肥量	窒素成分で 2kg/10a	窒素成分で 2kg/10a

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

- ア 総じて草丈、葉数は平年を上回っている。
- イ 強風により葉先枯れが見られる。
- ウ さび病、春腐病の発生が見られる。
- エ 消雪が早かった地域では既にりん片分化期に達している。その他の地域でも早まると予想される。

表－４ にんにくの生育状況（４月１０日現在）

場 所	年次	植付期	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	りん片 分化期 (月日)	備 考
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	10/ 1	50.0	7.5	15.5	4/13	透明マルチ
	平年並		(123%)	(133%)	(122%)	11日早	
	平年	10/ 1	40.5	5.6	12.7	4/24	
	前年	10/ 4	28.8	4.6	12.1	4/27	
藤 崎 町 若 松 (旧常盤村)	本年 (平比)	9/14	17.0	3.3	8.4	未分化	無マルチ
	平年	8日早	(84%)	(92%)	—	—	
	前年	9/22	20.2	3.6	—	4/30	
七 戸 町 榎 林 (旧天間林村)	本年 (平比)	9/28	36.8	5.2	16.4	4/19	グリーンマルチ
	平年	7日早	(157%)	(130%)	(152%)	6日早	
	前年	10/ 5	23.4	4.0	10.8	4/25	
田 子 町 日ノ沢	本年 (平比)	9/26	36.2	4.5	—	4/18	グリーンマルチ
	平年	14日早	(170%)	(109%)	(—)	6日早	
	前年	10/10	21.3	4.1	—	4/24	
		10/ 5	29.3	4.0	—	4/23	

- 注) ①平年：藤崎町は平成9年～26年の18か年の平均値。
七戸町は平成8年～26年（平成25年を除く）の18か年の平均値。
田子町は平成8年～25年の18か年の平均値。
- ②種子：藤崎町は白玉王（15～18g）。
七戸町は白玉王（11g）
田子町は白玉王（10～12g）
- ③葉数：野菜研究所は抽出葉数。
藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

(2) 今後の留意点

- ア 排水対策
排水が悪いほ場では明きよの設置などにより滞水しないように努める。
- イ マルチの補修
風などでマルチが浮き上がったり、剥がれている箇所は早めに補修する。
- ウ 適期追肥の励行（追肥体系の場合）
2回目の追肥は、10a当たり窒素成分で5kgを目安に、りん片分化期等の生育状況を確認しながら適期に行う。

2回目の追肥時期：透明マルチ・・・りん片分化期後10日ごろ
 黒マルチ・・・りん片分化期～りん片分化期後10日ごろ

エ 除けつ

1株に複数萌芽した株は、株の分離を確認後、株元の土を掘り、生育の良い方を残すように押さえ、他を引き裂くようにして抜き取る。

ただし、採種ほ場では抜き取りを行わず、そのまま生育させる。

オ 病虫害防除

さび病、春腐病の早期発見、早期防除に努めるとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

2 ながいも

- (1) 春掘作業は、好天に恵まれて順調に進んでいる。
- (2) 掘取りは作業条件の良いほ場から順次進め、芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。
- (3) トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。
- (4) 栽培法に合わせて種いもを準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月上旬に植付けする。

表－5 ながいも栽培法別の種いもの種類と重さ

栽培法	植付時期	種いもの種類	頂芽	重さ(g)
早植栽培	4月下旬～5月上旬	1年子	有り	50～100
普通栽培	5月中旬～6月上旬	1、2年子	切除	100～150
	5月下旬～6月上旬	切りいも	切除	120～150

3 トンネルにんじん、だいこん

(1) 生育状況

は種作業は消雪時期が早く、平年より早まった。

だいこんは、発芽が良好で気温が高めに推移したことから、葉長、葉数とも平年を上回っている。

表－6 春だいこんの生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	は種期	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
おいらせ町 内山平 (旧百石町)	本年	3/15	12.9	4.7	透明ポリマルチ＋ 透明ポリトンネル
	(平靴)	6日早	(269%)	(392%)	
	平年	3/21	4.8	1.2	
	前年	3/28	—	—	

注) ①平年:平成17年～26年の過去10か年の平均値。

②品種:春の星(平成17年のみ「喜太一」)。

(2) 今後の留意点

好天時は換気し、生育ステージに合わせた適正な温度管理に努める。

4 トマト、メロン

- (1) 苗の生育はおおむね順調である。
- (2) 定植に向けて徐々に気温を下げて苗を管理し、順化する。
- (3) 土壌水分が好適な時期に早めにマルチングを行って、地温の確保に努める。
- (4) 苗が老化しないように計画的にほ場準備を進める。定植が遅れる場合は、苗が老化しないよう薄めた液肥を与えるなど適正管理に努める。
- (5) 降霜が予想される時や低温時には、二重被覆や暖房器具等で保温に努める。

◎育苗中や定植間もない農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって
農薬は適正に使用しましょう。
農薬の飛散を防止しましょう。
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
農薬登録情報提供システム(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m000.html>)

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）
例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。
体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、あせらず、急がず慎重に！！
- 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
- 3 機械点検時には、エンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
- 4 高所作業の際には、周りの状況を確認し、身体の安全を保ちましょう！

連絡先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線 3462
直通 017-734-9481
